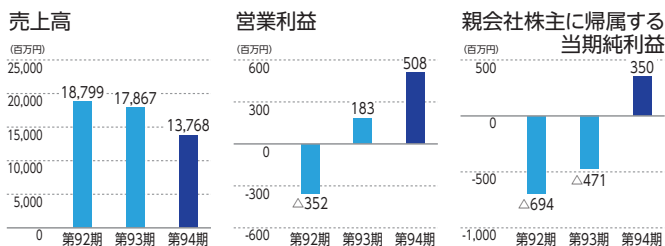




決算ハイライト



自動車部品事業

乗用車、トラック、建機、農機の内外装部品を各メーカーに供給。軽量化等の新工法や加飾など高付加価値部品を積極的にご提案し、開発・設計から量産までの一貫体制でお客様のニーズにお応えしております。

売上高 7,794百万円

国内部門におきましては、上期に新型コロナの影響を大きく受け、下期は回復をいたしました。特に中東向け乗用車、三次元加飾工法が採用された国内車種等が下期は堅調に推移し売上の減少を抑えることができました。



海外自動車部門におきましては、タイの自動車生産は新型コロナの影響を大きく受け、子会社であるECHO AUTOPARTS (THAILAND) CO.,LTD.の売上高は減少いたしました。

この結果、当事業の売上高は77億94百万円となり、前連結会計年度比28億75百万円減少しましたが、セグメント利益は1億39百万円と増加いたしました。

住宅設備・冷機部品事業

毎日の暮らしに密着したトイレ、バス等、水回り空間を中心とした住宅設備部品や冷機部品の開発、供給をはじめ、幅広い分野で貢献しております。



売上高 5,053百万円

国内部門におきましては、洗面化粧鏡の販売が好調に推移いたしました。新型コロナの影響や不採算分野の整理を行った結果、売上は微減となりましたが、主力工場を中心とした省人化や原価改善の進展により、利益は大幅に増加いたしました。

海外冷機部品部門におきましては、タイ子会社であるTHAIKODAMACO.,LTD.、ベトナム子会社であるTHAI KODAMA (VIETNAM) CO.,LTD.は、新型コロナの影響は少なく売上は順調に推移しました。また、中国子会社である無錫普拉那塑膠有限公司は、全株売却の為、全体の売上高は減少いたしました。

この結果、当事業の売上高は50億53百万円となり、前連結会計年度比12億67百万円減少いたしました。セグメント利益は4億15百万円となりました。

エンターテインメント&物流資材事業

ゲーム用パッケージ等のアミューズメント領域から最先端のIT機器フォルム、植物工場の水耕システムコンポーネントなどの先進的な市場、医療領域に至るまでの製品開発に挑戦しております。

売上高 920百万円

映像用ソフトパッケージ及びゲームソフトケースは、「巣ごもり需要」等によるゲーム市場の好調を受け、需要が増加したことにより、売上高、収益とも増加致しました。

この結果、売上高は9億20百万円となり、前連結会計年度比43百万円増加いたしました。セグメント利益は1億39百万円となりました。

なお、現行95期より、**■アドバンスドマーケット事業**と名称変更いたし、さらなる領域拡大を目指してまいります。

会社概要・株式情報

会社概要 2021年3月31日現在

商号 児玉化学工業株式会社
 (英 文 名) KODAMA CHEMICAL INDUSTRY CO.,LTD.
 設 立 1946年3月8日
 資 本 金 1億円

役員 2021年6月25日現在

代表取締役	坪田 順一	社外取締役	珍部 千裕
取締役	齋藤 義一	社外取締役	中 眞人
取締役	黒沢 清和	社外取締役	鈴木 洋之
取締役	橋本 真一	社外取締役	横山 徹子
社外取締役	中村 公泰	社外取締役	浦部 明子

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.kodama-chemical.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)
 1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 2. 特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

株式に関するマイナンバー制度のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続きが必要となります。このため、株主様からお取引の証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

WEBサイトのご案内

ホームページサイトでは、企業情報やIR情報など最新の当社情報を幅広く提供しております。

<https://www.kodama-chemical.co.jp/>

児玉化学工業

検索



BUSINESS REPORT

第94期 ビジネスレポート

2020年4月1日 ▶ 2021年3月31日



代表者インタビュー



代表取締役社長
坪田 順一

8期ぶりのすべての利益段階における黒字転換

はじめに現在の経営状況をご報告申し上げますと、当社は2019年3月期までの財務状態の大幅な悪化を受け、2020年1月に事業再生ADR手を申請し、同年4月に本手続および取引先金融機関による金融支援等を含む事業再生計画の成立に至りました。そして同年3

月、エンデバー・ユナイテッド株式会社（以下、EU社）および同社が管理・運営する投資ファンドによるスポンサー支援に合意して6月に金融支援・資本増強の実行を受け、その時点で債務超過の状態を解消しております。

以来、EU社からはサプライヤー等のネットワークのご紹介や生産・管理のプロセス改善などに対する専門的見地からのアドバイスやご提案をいただいております。これらを有効に取り入れていくことで、経営全体の質的向上にもつながっております。

それまでの間、株主の皆様には多大なご心配をおかけいたしました。その後当社は財務体質の強化が進み、2021年3月期業績は、8期ぶりに営業利益以下すべての利益段階において黒字に転換することができました。社員の努力に深く感謝するとともに、株主の皆様、お客様、金融機関様ならびにスポンサー様、ご支援を賜りましたすべての方々にご心より御礼申し上げます。

とはいえ当社はまだ経営再建の途上にあることを自覚し、さらに気を引き締めて安定的な財務基盤の確立と業績の継続的改善を図り、成長軌道への復帰を目指してまいります。

再建に向けた体質改善でコロナ禍の影響が低減

2021年3月期は前述の通り黒字転換を遂げましたが、自動車部品事業を中心に新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響を受け、売上高は前期を下回る結果となりました。住宅設備・冷機部品事業における中国子会社の売却も減収要因の一つとなっております。

しかし、経営再建に向けて既に体質改善を進めていたため、不測の事態に対応した施策の前倒しや深耕を図ることができ、

コロナ禍の影響については利益へのダメージを極力低減することが出来ました。

自動車部品事業は、上期における顧客工場の稼働停止が響き、殊にタイでは、近年の景気後退も相俟って厳しい状況となっております。それを受けて当社は、ボディメーカーとの直接取引化など受注スキームの合理化を進展させ、利益確保につなげましたが、新規受注の獲得では、コロナ禍による対面営業の自粛は、やはり足かせとなりました。

一方、住宅設備・冷機部品事業は、コロナ禍の影響が比較的少なく、主に中国事業の譲渡はじめ不採算分野の整理施策により減収とはなったものの、ロボット導入による製造現場の省人化や同上施策等による原価改善が奏功し、利益は大幅に増加しました。

またエンターテインメント事業は、ゲームソフトパッケージの需要が増加し、売上高・利益をともに伸ばし、ノートPCのCFRP筐体の成形切削加工を受託し高精度の技術でお客様の信頼を獲得するなど、今後の発展が期待できる成果を上げました。

経営再建の当初は、事業ポートフォリオ戦略として自動車部品事業への重点的なリソース集中を打ち出しておりましたが、現在は自動車部品事業による安定性を担保しつつ、住宅設備・冷機部品事業およびエンターテインメント事業において利益の素地を築き、最適なバランスを保持する方向に舵を切っております。

製造においては、改善プロセスの確立に傾注し、合理的アプローチによる生産性向上に取り組んでおり、技術面では、自動車部品事業で培ったGMT工法、TOM表面加飾工法の汎用化や、住宅設備・冷機部品事業への横展開を図り、需要の深掘りおよび起用拡大を目指しております。

目下社内では、マーケティングに根ざした営業・開発の強化に向けて、外部登用した人材による指揮のもと改革を進めてまいります。

なお、管理体制については、事業部単位で行っていた従来の体制を現行2022年3月期から生産拠点単位へと転換し、工場採算性の追求による手法を導入いたしております。営業・開発は、その工場から生まれる製品・技術に価値を付加しお客様に提供していくことにより利益の拡大を図ってまいります。

ステークホルダーにアピールする、誇るべき企業へ

この4月、新年度を迎えるにあたり当社は新たな「経営方針」

を策定し、今後の方向性をより明確化いたしました。現在、財務面については再生ステージに乗っていることを踏まえ、新経営方針では、当社のあるべき姿を具現化する「もうひとつ上」のステージとして、ESG評価やダイバーシティを重視し、社会的な価値観とシンクロした経営を推進することといたしました。そして、ここに挙げた製造・営業・開発、管理の各部門における重点施策を着実に実行し、求められる価値を具現化して行こうとしております。そして今年があるべき姿へと成長を遂げていく、その元年であると認識しております。

2022年3月期の連結業績は、売上高142億70百万円（当期比3.6%増）、営業利益8億円（同57.2%増）、経常利益7億円（同98.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益4億40百万円（同30.8%増）を予想しています。足もとの営業状況は、自動車部品事業を中心にコロナ禍の影響からの挽回が続いており、上記予想数値の達成が十分可能と見ております。

今期の最重点項目は、品質のさらなる向上です。

品質は、経営方針の「一丁目一番地」と言える製造業における永遠のテーマであり、お客様に満足していただける品質を提供することを当社最大のミッションと捉え、全社を挙げてこれを追求してまいります。

また今期は、先に述べた既存技術の横展開を図りつつ、同時に新たな技術の開発についても注力していく考えであります。

いま私たちの目の前にある業績回復は、あくまで通過点に過ぎず、これから先はより長期的な視点に立ち、社会から求められ持続的に成長する企業を実現してまいります。当社の財産は、GMT工法やTOM表面加飾工法などの最新技術のみならず、70年以上にわたり培ってきた高度な成形切削加工技術こそ、他社にない強みとして大きなポテンシャルを秘めていると考えております。その優位性を活かし、未来の可能性を拓くことで、私たちはさらなる社会価値の提供を果たしてまいります。

そして、当社を取り巻くすべてのステークホルダーから「この会社に関わることができてよかった」と満足していただける、誇れる企業を目指し、一歩ずつ愚直に歩んでまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き長期のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

